巻　頭　言

「聴覚、知的障害のある幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた教育を行い、生きる力をはぐくみ、積極的に自立・社会参加できる人間を育成する」を教育目標に掲げた平成22年度がまとめの時期を迎えました。

特別支援教育に対する世の中の理解が進むにつれて特別支援学校には、より高度な教育力やセンター的機能の充実が求められ、教員には、幼児児童生徒個々のニーズに対応するより高く、より深い指導・支援の力が求められています。

本年度、本校では、愛媛県教育委員会の主催事業である「県立特別支援学校における授業改善プロジェクト」を受け、聴覚障害部門に国立特別支援教育総合研究所企画部総括研究員の藤本裕人氏を、知的障害部門に愛媛大学教育学部教授の上岡一世氏を講師に迎え、「子どもの生きる力を伸ばす授業改善」をテーマに、全教員が研究活動に取り組んできました。両氏には、それぞれ二度の訪問指導のほかに事前指導をいただき、公開授業研究・講演において、「生きる力」を具現化する上での考え方や授業改善に向けた研究の方法、その他研究の方向性や取組上の留意点等数多くの御教示をいただきましたことに改めてお礼を申し上げる次第です。

さて、今回の研究では、校内に設置したプロジェクトチームを中心に研究計画を立案し、具体的な取り組みとして全教員が１年間に３回の研究授業を行いましたが、その度ごとに参観者による授業評価と自己評価を行うことで課題が明らかになり、次回の指導案上に改善点を明記するなど、指導内容や指導方法に一段と深まりと広がりが見られました。中でも、聴覚障害部門では、幼児児童生徒の正確な実態把握に基づく指導計画を立案し、振り返りの活動や視覚教材の活用、流れの分かる板書や理解度の確認等を通した分かる授業の確立を目指しました。また、知的障害部門では、研究テーマ中の「生きる力」を、小学部では主体的に行動できる力、中学部では生活に生かせる力、高等部では自ら考え判断し行動する力、訪問教育ではコミュニケーション力と考えることによって、早期実態把握のもと、個々の教育的ニーズと発達段階に応じた的確で効果的な授業・方法の研究に直結するものとなりました。研究が進むにつれて日常的に児童生徒の情報交換が行われるようになり、授業のあり方が見直され、順次新たな工夫が重ねられたことは、授業改善に取り組む全教員の高い意識と意欲の表れであり、その真摯な姿勢に敬意を表する次第です。

今後は、今回研究の目的に上げた４つの項目である、

１　子どもの実態を把握する力を身に付け、個々の教育的ニーズに応じたきめ細かな授業の実践力を高める。

２　『個別の指導計画』の実用性を高め、個に応じた指導方法を研究する。

３　一貫性のある指導のもと、幼小中高の連携のとれた体制作りを目指す。

４　教師一人一人の専門性を高め、指導力の向上を図る。

を全教員が自分自身の教師スタイルとし、ＰＤＣＡサイクルを通した授業実践に取り組むことで幼児児童生徒の生きる力がなお一層高まりを見せ、自己実現の一助となることを期待してやみません。本研究活動に御指導・御助力を賜りました皆様に感謝を申し上げますとともに、この研究紀要が特別支援教育の更なる発展と充実にいくらかでも役立てばこの上ない幸せです。

愛媛県立宇和特別支援学校長　上甲　廣文